

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	今仙電機 開発センター	階数	地上3F
建設地	愛知県犬山市大字犬山宇東古券42	構造	S造
用途地域	第一種住居、第二種住居/準防火地域	平均居住人員	110 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	3,000 時間/年
建物用途	事務所、ホテル	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年3月 予定	評価の実施日	2014年8月31日
敷地面積	2,999.57 m <sup>2</sup>	作成者	近藤 誠治
建築面積	1,487.76 m <sup>2</sup>	確認日	2014年8月31日
延床面積	2,765.60 m <sup>2</sup>	確認者	早矢仕 英治



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.2**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub> (温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み 96%

③上記+②以外の 95%

④上記+ 95%

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

**Q のスコア = 3.1**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.8

**LR のスコア = 3.3**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em; color: green;">3.6</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em; color: green;">3.0</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</td> <td style="text-align: center;">17.1 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</td> <td style="text-align: center;">0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	17.1 %	建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	17.1 %				
建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em; color: green;">3.0</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</td> <td>なし</td> </tr> </table>	<外装材に使用した地域性のある材料>	なし	<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>	なし
<外装材に使用した地域性のある材料>	なし				
<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>	なし				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
 LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用  
 Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積 (建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積 (法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	県独自基準	重点項目			評価点	重み係数	評価点	重み係数		
<b>Q 建築物の環境品質</b>										
<b>Q1 室内環境</b>										
<b>1 音環境</b>										
<b>1.1 騒音</b>										
1 室内騒音レベル										
2 設備騒音対策										
<b>1.2 遮音</b>										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
<b>1.3 吸音</b>										
<b>2 温熱環境</b>										
<b>2.1 室温制御</b>										
1 室温										
2 負荷変動・追従制御性										
3 外皮性能										
4 ゾーン別制御性										
5 湿度・湿度制御										
6 個別制御										
7 時間外空調に対する配慮										
8 監視システム										
<b>2.2 湿度制御</b>										
<b>2.3 空調方式</b>										
<b>3 光・視環境</b>										
<b>3.1 昼光利用</b>										
1 昼光率										
2 方位別開口										
3 昼光利用設備										
<b>3.2 グレア対策</b>										
1 照明器具のグレア										
2 昼光制御										
3 映り込み対策										
<b>3.3 照度</b>										
<b>3.4 照明制御</b>										
<b>4 空気環境</b>										
<b>4.1 発生源対策</b>										
1 化学汚染物質										
2 アスベスト対策										
3 ダニ・カビ等										
4 レンジオネラ対策										
<b>4.2 換気</b>										
1 換気量										
2 自然換気性能										
3 取り入れ外気への配慮										
4 給気計画										
<b>4.3 運用管理</b>										
1 CO <sub>2</sub> の監視										
2 喫煙の制御										
<b>Q2 サービス性能</b>										
<b>1 機能性</b>										
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>										
1 広さ・収納性										
2 高度情報通信設備対応										
3 バリアフリー計画										
<b>1.2 心理性・快適性</b>										
1 広さ感・景観										
2 リフレッシュスペース										
3 内装計画										
<b>1.3 維持管理</b>										
1 維持管理に配慮した設計										
2 維持管理用機能の確保										
3 衛生管理業務										
<b>2 耐用性・信頼性</b>										
<b>2.1 耐震・免震</b>										
1 耐震性										
2 免震・制振性能										
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>										
1 躯体材料の耐用年数										
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔										
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔										
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										
5 空調・給排水配管の更新必要間隔										
6 主要設備機器の更新必要間隔										

2.4 信頼性				2.6	0.19			
1 空調・換気設備		②		1.0	0.20		-	
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20		-	
3 電気設備				3.0	0.20		-	
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20		-	
5 通信・情報設備				3.0	0.20		-	
3 対応性・更新性				3.4	0.29	4.0	1.00	3.5
3.1 空間のゆとり				5.0	0.23	4.0	1.00	
1 階高のゆとり			事務所部分階高H4080以上、宿泊部分階高H3700	5.0	0.60	4.0	1.00	
2 空間の形状・自由度			壁長さ比率=195.26/2844.39=0.068	5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.23	-	-	
3.3 設備の更新性				3.0	0.55		-	
1 空調配管の更新性				3.0	0.17		-	
2 給排水管の更新性				3.0	0.17		-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.11		-	
4 通信配線の更新性				3.0	0.11		-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.22		-	
6 バックアップスペース				3.0	0.22		-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	2.8
1 生物環境の保全と創出	●	③		3.0	0.30		-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮	●	④		3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30		-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	●	④		3.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.7
1 建物の熱負荷抑制			別紙算定による。	4.0	0.30		-	4.0
2 自然エネルギー利用				3.5	0.20		-	3.5
2.1 自然エネルギーの直接利用				3.0	0.50		-	
2.2 自然エネルギーの変換利用			太陽光パネルの設置。	4.0	0.50		-	
3 設備システムの高効率化			別紙算定による。	4.0	0.30		-	4.0
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				4.0				
集合住宅の評価				3.0				
4 効率的運用				3.0	0.20		-	3.0
4.1 モニタリング				3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50		-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護				3.4	0.15		-	3.4
1.1 節水			節水器具、擬音装置を採用	4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33		-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.0	0.63		-	3.0
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.21		-	
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	●	②	建築用石材	3.0	0.21		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組	●			3.0	0.25		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22		-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32		-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68		-	
1 消火剤				-	-		-	
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50		-	
3 冷媒				3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		①	別紙算定による。	3.6	0.33		-	3.6
2 地域環境への配慮				3.0	0.33		-	3.0
2.1 大気汚染防止			燃焼機器の使用なし。	5.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減	●			3.0	0.25		-	
2 汚水処理負荷抑制	●			3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制	●			3.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33		-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40		-	
1 騒音	●			3.0	0.33		-	
2 振動	●			3.0	0.33		-	
3 悪臭				3.0	0.33		-	
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制				3.0	0.40		-	
1 風害の抑制				3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制				-	-		-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制				3.0	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のうちに外に漏れる光への対策				3.0	0.70		-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30		-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.6</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.6	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.0</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>3.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	
<b>④ 地域材の活用</b>				<b>1.0</b>
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

計画上の配慮事項	
総合	<p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p> <p>犬山城及び城下町の景観に寄与するために、北側道路沿いの建物を切妻形式とし歴史的な町並みに配慮した。南側立面においてはガラス面を多用することで北側と対比しモダンな印象となるように計画するとともに、水平庇を基調とすることで日射遮蔽による環境負荷低減を図った。</p>
Q1 室内環境	<p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>断熱材を壁や天井部に適宜配置し、断熱性の高い建物となるよう考慮した。また南面においてはカーテン・ブラインドに庇を組み合わせ、西面においてはさらに縦ルーバーを組み合わせることで日射の制御に配慮した。</p>
Q2 サービス性能	<p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>エントランスホール の天井高さを3.5m以上確保し、かつ開口部を集中的に配置した。利用者が広く感じられる空間となる様に計画し、心理性・快適性に配慮した。宿泊室の天井高さを2500、事務室関係は2700以上とした。</p>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>周囲の歴史的な町並みに調和する様に、1階建て部分を切妻形状とした。また建物周囲及び敷地境界線周囲に緑地を配置することで周囲への景観配慮と環境性能の向上を図った。</p>
LR1 エネルギー	<p>便所に高効率照明(LED)を採用し、消費エネルギーの低減を実現した。また太陽光パネルによる自然エネルギーの利用も行う。</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>節水器具、擬音装置を採用した。</p>
LR3 敷地外環境	<p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>駐車スペースへのアプローチにおいて、利用者動線を西側道路(幅員13m)から、サービス動線を北側道路(幅員6m)から区別して設けることで、明確なゾーニングとし双方に使いやすい計画とした。分かり易いスムーズな敷地へのアプローチとすることで周囲の道路への負荷を軽減した。</p>
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>